

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 News【第 1 号】

平成 24 年 3 月 14 日、平成 23 年度「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催しました。

平成 23 年度 幾春別川ふるさとの川づくり懇談会を、以下のとおり開催しました。

- ・ 日時:平成 24 年 3 月 14 日(水) 10:00~12:00
- ・ 場所:岩見沢河川事務所 1F 会議室

当日は委員 14 名中、代理出席を含め 8 名の方が参加しました。昭和 56 災害から 30 年、9 月には大雨、冬は豪雪を経験した今年度は治水・利水・環境という 3 つの側面を見据えた懇談会となりました。まず、「幾春別川懇談会ニュース」の HP 掲載についての説明、平成 23 年 9 月 2 日大雨出水時の幾春別川新水路の効果についての報告、また今後の豪雪対応について説明と意見交換を行いました。その他、幾春別川のハリエンジュ(外来種)駆除試験や魚類生息状況の調査結果について報告を行い、河畔林の再利用や市民参加について多くの意見が出されました。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 の主な発言から

懇談会の主な発言をご紹介します。

「懇談会ニュース」の HP 掲載について

- ・平成 20 年度、21 年度、22 年度の 3 年間分がこれまで掲載されていなかったため修正意見の有無を確認の上、早急に掲載する旨を報告した。

平成 23 年 9 月 2 日大雨出水時の 幾春別川新水路の効果について

- ・幾春別川新水路が洪水に対して効果があるということについて初めて知った。これだけの大雪が降っても災害が起きていない。治水事業の効果で 30 年水害がないことを市民はほとんど知らないのではないかな。もっと市民に PR しても良いのでは。
- ・出水終了後の資料は開発建設部の HP で閲覧できるが知っている人が少ないのではないかな。防災訓練時にパネル展示をする等、資料を活用したい。
- ・防災無線の効果があった。ソフト対策も必要ではないかな。ハザードマップだけでなく、津波マップも併せて地震で堤防が崩れた場合も想定してどう逃げるかも伝えていった方がよい。
- ・震災に対して関心が強い今、講演会や防災訓練等でパネル展示をしたり、学校の総合学習で取り上げるなど、少ない予算で市民

が安心できるよう PR を行う必要がある。

- ・子供達に水害の経験がない。総合学習等で取り組む必要がある。

今冬の豪雪対応について

- ・昭和 56 年洪水時に自衛隊が救助に来てくれて大変助かった。災害時には自衛隊の機動力が必要となることから、河川事務所と自衛隊がどのような連携をとっているのかわかれば市民は安心することができる。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 委員

氏 名	所 属
石黒 武美	NPO 法人山のない北村の輝き 理事長
伊東 良幸	岩見沢市教育委員会 教育部長
榊原 郁子	北海道教育大学岩見沢校 名誉教授
嵯峨 義輝	幾春別川をよくする市民の会 会長
鈴木 大助	(社)岩見沢青年会議所 理事長
鈴木 英夫	三笠市 経済建設部 建設管理課長
高篠 和憲	NPO 法人三笠森林遊学舎 理事長
奈良 健二	岩見沢市観光協会 会長
原田 勇雄	札幌建設管理部 岩見沢出張所長
宝沢 康晴	FM はまなす JAPAN 放送局 部長
眞野 弘	北海土地改良区 理事長
三島 均	岩見沢市 環境部 環境保全課長
伊藤 禎朗	岩見沢河川事務所長
筋野 晃司	幾春別川ダム建設事業所長

- ・市と自衛隊が直接連絡することはできないのか、防災ステーションにどのような設備があるのか等、マニュアルは存在するのか。
- ・河川事務所や市役所で発電機や食料など生活維持のために使用できるものを運ぶ船くらいは持っていてほしい。
- ・発電機は自治体も持っていないところが多く、発電機がないと暖房も使えない。今後考えていく必要があるのでは。
- ・消流雪は、雪を堆積場まで運搬するロスが省け、低コストで非常に役立つ。
- ・道路の通行止めも多かったため、特に迂回路についてラジオへの問い合わせが多く、建設管理部からの情報が役立った。
- ・桂沢ダムの嵩上げと三笠ぼんべつダムの建設について事業検討の場で検証中だが早急に結果を出して欲しい。
- ・今年のように雪が多ければダムが満水になるのではと心配。

幾春別川でのハリエンジュ(外来種) 駆除試験について

- ・ハリエンジュは幹が堅くて薪・炭に適している。良質のハチミツが採れる木でもあるので、駆除ではなくバイオマスの観点から利用できないか検討している。
- ・ボランティアで枝払いなど市民参加を含めきれいな河畔林を維持、再利用する方法を考えていきたい。

幾春別川の魚類生息状況について

- ・幾春別川には湧水箇所がないので産卵床となる場所がないと言われたことがある。水源地から水を入れるという話もあったがすぐに土砂が溜まってしまっていて実際には難しかった。
- ・幾春別川はサケの産卵には適していないということで、三笠では上記のとおりヤマベの放流をしていた。上流には産卵床に適したところもあり、これであれば良いのでは。5年ほど前に水辺の楽校で子供達と釣り目的でニジマスの放流をしていたが4年前か

らヤマベに戻した。ほとんどは上流で放流しているが、この2年は数が確保できず放流していない。

- ・サケの産卵床の確認はしているが、ふ化の確認はしていない。桂沢の付近まで来れば湧水がたくさんあるので大丈夫では。
- ・子供達が興味を持ってくれることが重要。
- ・かつては北村の産業として、ヤツメの缶詰工場などもあったが、今はヤツメが全然獲れなくなった。幾春別川に上がってきていると聞いて驚いている。
- ・いろんな魚種がいるということは幾春別川がきれいだと、環境的にはよくなってきているということを実証していると思う。

その他

- ・平成23年9月2日の大雨出水時に、ラジオから状況を伝えるために水位をチェックしたり問い合わせをしたり、非常に緊張して対応したので、FMの方にも何か情報を頂ければ助かる。

事務局から

- ・委員の了承のもと来年度も「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催することとなりました。
- ・来年度の座長は引き続き宝沢委員となりました。

ご意見やお問い合わせは、下記事務局
札幌開発建設部 岩見沢河川事務所
 〒068-0007
 岩見沢市7条東9丁目
 TEL 0126 (23) 9555
 FAX 0126 (25) 1697
 まで、お気軽にお寄せください。
 札幌開発建設部 HP アドレス
<http://www.is.hkd.mlit.go.jp/>